

10月 いけざわこどもクリニック通信

Vol. 181
2017/10/01



彼岸花があちこちに咲き始めました。
この頃はひんやりとした空気が気持よく、過ごしやすい季節になりましたね。
いよいよ秋本番、院内も恒例のハロウィン一色です。今月からインフルエンザワクチンも開始となり、冬に向かって増え忙しくなりますがスタッフ一同頑張ってまいります！！

お薬手帳

他院で処方されたお薬や、残薬を把握する為、診察時にはお薬手帳を確認させて頂きます。

18時～はインフルワクチンのみ

保育園や学校に通うお子さま、またフルタイムで働く保護者の皆さまのご都合を考慮し夕方、インフルエンザワクチンのみの時間を夕方に設けました。

火曜・水曜・金曜夕方 6時～7時インフルエンザワクチン(同時接種は行いません)のみを接種します。

11月に入ると混雑が予想されます。接種希望者は早めに予約をお願いいたします。ネット予約が難しい場合は院内でも予約を致しますので受付までお申し出ください。

感染症情報	前回	今回
	7/24～8/27	8/28～9/24
アデノウイルス	7	20↑
溶連菌感染症	15	5
感染性胃腸炎	33	25
水痘(水ぼうそう)	0	2
りんご病	1	1
手足口病	67	19
RSウイルス	27	76↑↑
突発性発疹	14	5
おたふくかぜ	6	4
ヘルパンギーナ	37	27
インフルエンザA	0	1

いけざわこどもクリニック

小児科・アレルギー科



住所 合志市野々島2461 (ユーパレス弁天 北側)
TEL 096-242-6633
ホームページ <http://www.ikezawa.org/>
PC 予約 <http://ssc.doctorqube.com/ikezawa/pc/index.html>
Mobile 予約 <http://ssc.doctorqube.com/ikezawa/>
診療時間 9:00～12:30 / 14:30～18:30
休診日 木曜午後・土曜午後・日曜祝日

予約用QRコード →



頼りになるのは

東京に住む長女が夜中にLINEで具合が悪い、と連絡してきた。喉が恐ろしく痛いという。とにかくつくてたまらないが、翌朝はナント5時からバイトだって!? 「今すぐカフェの店長に電話して休みなさい」と言っても、責任感の強い娘は「大学に行く前の2時間だからどうにかなる」という。病気の時はかえって良いサービスが出来ないよ。バイトが休んだりくりは店長の仕事、とにかく休みなさい、と念を押した。それが結局は良かった。娘は翌朝起き上がりがれないと動けなくなつた様子。「きつい、きつい」とLINEからこぼれる文字に、遠く離れた私たちはどうする術もなく言葉を失う。とにかく病院を探して行くよう伝えた。

ネットで内科を検索し、最寄りの内科を受診した娘、しかし診察は処方のみ。「点滴してもらえませんか」と恐る恐るお願いしたら院長に「きつさをとる薬はない」と冷たく返されたよう。実況中継でLINEがくるため「こんな時は看護婦さんに訴えてみたら?」と打つと「院長にきいてみるって」と返事。しかし……結局は何もしてもららず、だるさ&きつさMAX状態で娘は一人暮らしの部屋に帰宅…。故郷を離れ、ひとり暮らしをする時、自由を満喫し楽しんでいても、こんな時は可愛そうだなと思う。私もひとり暮らしの時に熱を出したら急に寂しくなつたモンだ。こんな時、誰かが優しく額に手をあてて「大丈夫?」と言ってくれたなら、どんなに心強いだろう。安心できるだろう。当たり前だが、病気の時に頼るの

は病院だ。その病院の医師や看護師や事務、誰でも良い。だれか一人でも患者の味方になってくれなければ、寄り添ってくれなければ、一人ぼっちの弱った人間は誰に寄りかかれば良いのだろう??

『彼氏がいたら良かったね(笑)』の(笑)が→(涙)、→(号泣)じやないか(T_T)

娘はトローチと痛み止めだけ処方されて帰宅。診断が正しいとか間違いとかではなく、診察後の私たち家族には不満と不安が残ったのは確か。

「あの先生、病気しか診てない、私を見てない」と弱ったガラガラ声で娘が言った。そうだね、そうかもしれないね。点滴って栄養はない、水分だけ、とか言うけど、自分もしてもらうと体がすごく楽になるもんなあ。仕方ない!こうなつたら自力で治すしかない!「今すぐ、あの冷凍うなぎを食べなさい」と遠隔指示。娘にずいぶん前に送ったものだが、食べるきっかけがなかなか訪れなかつたようだ。ここぞとばかりのうなぎを、狭いキッチンでよろよろと立ち上がり、グリルで焼く娘を想像しながら、こうやって、寂しさや辛さを知って、乗り越えて大人になるのかな、と思う。

あれから娘は数日かけて何とか治つたようだ。これからはきっと、あれくらいの状態ではもう病院には行かないだろう。あの辛さが娘を更に強くしてくれたのなら、結果的には良かったのかな?しかし、離れて暮らす子ども達が病気になるたび、母のココロはキリキリと痛むのである(涙)。



(文責 池澤 千恵子)